



活火山・休火山・死火山は、どこがちがうの

昔は、この3つになかま分けしていた

火山には、桜島のように、現在も噴火して、活動を続けている火山、富士山のように、昔、活動した記録が残っている火山、大雪山のように、歴史に、噴火した記録がない火山があります。

昔は、活火山・休火山・死火山、というなかま分けがされていて、を活火山、を休火山、を死火山とっていました。

最近では休火山・死火山、といういい方はしない

最近では、活火山・休火山・死火山、という分け方は、されなくなりました。その理由は、火山の記録が古いものでも、数百年から千数百年前ぐらいのものです。このぐらいの年数は、火山が活動を休めている、長さにあたります。

死火山といわれていたものが、急に噴火したこともあったので、休火山・死火山、といういい方は、されなくなりました。

雲仙岳(普賢岳)は、およそ200年ぶりに噴火しました。このときには、高温の火山ガス、火山灰・火山れきなどが、混ざった火砕流が、くり返しふもとの町をおそい、亡くなったり、行くえ不明の人が44人いました。また、たくさんの家や畑がどろの下にうずまり、たいへん大きな被害が出ました。

最近では、噴火の記録がなくても、過去1000年ほどの間に、噴火したことが、科学的に証明されたものを、活火山とよんでいます。(監修・国司 真)

